

先端医学研究トレンド

岡山大学クライオFIB-SEM・トモグラフィー

特別講演会 in 鹿田

参加費
無料

2026年

日時

2月10日(火) 16:00 ~ 18:00

場所

鹿田キャンパス内鹿田会館講堂・オンライン配信あり

プログラム

開会挨拶

岡山大学 学術研究院医歯薬学域長
成瀬 恵治

岡山大学J-PEAKSの概要説明

研究・イノベーション共創機構 副機構長
河本 雅紀

岡山大学クライオ電子顕微鏡、クライオFIB-SEMの概要

岡山大学 異分野基礎科学研究所 准教授
沼本 修孝

特別講演

座長：岡山大学 異分野基礎科学研究所 所長 沈 建仁

クロマチンの構造と動態が司る
ゲノム機能制御の分子基盤

東京大学 定量生命科学研究所 教授
胡桃坂 仁志

申込

参加登録フォームから、お申し込みください。

申込期限

2026年2月3日(火)

<https://forms.office.com/r/Py9P38Pen>



アクセス

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_5.html

- ・タクシー
岡山駅：東口タクシー乗り場から
約7分
- ・JR岡山駅 → 岡電バス
約10分
- ・岡山駅 → 路面電車
約15分



会場は
こちら

問い合わせ

事務局：岡山大学医療系等研究開発戦略委員会

Tel: 086-235-7982 E-mail: kensui-soumu @adm.okayama-u.ac.jp

講演者のご紹介

胡桃坂先生は、真核細胞の核内で直径数～10μmという限られた空間に、全長約2mにも及ぶゲノムDNAの核内収納に重要なクロマチン構造を、生化学、分子生物学的に活発に研究されています。クロマチン構造は、DNAとヒストンタンパク質(H2A、H2B、H3、H4)から構成されるヌクレオソームを基本単位にしています。近年、クロマチンの構造的多様性やダイナミクスが、遺伝子発現制御、DNA複製、DNA修復といった基本的な核内反応を精緻に制御し、細胞分化、発生、恒常性維持といった生命現象の基盤であることが明らかになってきました。本講演では、クライオ電子顕微鏡を活用したクロマチン構造研究を含む最新の成果をもとに、ゲノム機能がどのように多層的かつ動的に制御されているのか、その分子機構と生物学的意義についてご紹介いただきます。

J-PEAKSとは、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進する事業です。

岡山大学では「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の取り組みの一環として、先端分析計測設備・基盤設備の充実及び共用化を推進しています。中四国地域に初導入したクライオ電子顕微鏡や、西日本初導入のクライオFIB-SEM装置についても共用化しており、他機関との連携・ネットワークの強化を図っています。